

## 第5回 鎌倉市地域拠点校選定委員会 議事要旨

### 1. 開催日時

平成28年3月17日（金）15時00分から16時10分

### 2. 開催場所

鎌倉市役所 第3分庁舎1階 講堂

### 3. 出席者等

#### 【委員】

志村直愛委員長  
石渡好行副委員長  
伊藤甲之介委員  
倉斗綾子委員  
林誠之介委員  
坂本工委員（欠席）  
杉山恵子委員  
中村正裕委員  
井上全信委員  
岩佐勝司委員  
山ノ上喜一郎委員

#### 【事務局】

比留間彰（経営企画部長）  
大隅啓一（経営企画部次長）  
佐々木聡（経営企画部経営企画課担当課長）  
鈴木康之（経営企画課課長補佐）  
石塚智一（経営企画課公共施設再編推進担当  
担当係長）  
坪田慎介（経営企画課公共施設再編推進担当）

#### 【傍聴者】

4名

#### 【幹事】

奈須菊夫（地域のつながり推進課長）  
廣川 正（こどもみらい課担当課長）  
栗原章郎（保育課長）  
瀬谷公重（青少年課長）（欠席）  
小宮 純（高齢者いきいき課担当課長）  
八神陽介（教育部次長）  
朴澤徹範（教育総務課担当課長）  
濱本正行（学校施設課長）  
菊池 隆（中央図書館長）

### 4. 次第

- 1 開会
- 2 報告
  - (1) 前回議事録について
- 3 議題

(1) 意見公募の結果及び意見に対する市の考え方について

(2) 地域拠点校選定の考え方（提言）の確定について

4 その他

5 閉会

## 5. 報告

### (1) 前回議事録について

事務局 【資料 1 第 4 回鎌倉市地域拠点校選定委員会議事要旨（案）について説明】

志村委員長 議事録についてはよろしいか。

全委員 （異議なし）

## 6. 議題

### (1) 意見公募の結果及び意見に対する市の考え方について

事務局 【資料 2 地域拠点校選定の考え方（素案）に対する意見公募の結果について説明】

【資料 3 地域拠点校選定の考え方（素案）に対する意見と市の考え方整理表（未定稿）について説明】

志村委員長 パブリックコメントを行った結果、13 件の意見があったということであった。パブリックコメントについて意見があれば、発言いただきたい。

山ノ上委員 この内容を見ると、行政センターがなくなることを知らない人がまだまだ多いということがわかる。この取組についての周知がまだまだ足りないのだと思う。これからこの取組をさらに進めていけば、もっと多くの意見が寄せられることになると思う。

事務局 取組の周知が足りないという指摘は、たびたび委員会でもいただいていたことであり、今後は一層の周知と丁寧な説明を行っていききたい。

杉山委員 賛成の意見もあれば、反対の意見も見られるが、それらの意見のなかに、越してこられたと思われる方からの意見で、30 年後の視点がないとの指摘がある。鎌倉の魅力と一言で言っているが、もう少し具体的に生活に即した魅力を市役所のほうで示したほうが良い。

志村委員長 将来ビジョンは、市で考えたほうが良いものと、市民でも考えないといけないものがあると思う。

在住年数によっても意見が変わってくるのだろうという印象がある。もちろん在住歴が長い人にも、短い人にも対応できような多様性が市には求められている。杉山委員から指摘があったように、少し先のビジョンを示していくことも重要であると思う。意見提出者の居住年数等のデータはあるのか。

事務局 意見提出者の居住年数等のデータはない。

志村委員長 このパブコメの結果を見て、事務局のほうで気になることがあれば教えてほしい。

事務局 否定的な意見も見られたが、8 件は賛成の意見であった。これまで委員会で

もたびたび指摘いただいたように、学校環境や安全への配慮を気にする意見が見られたことから、そのあたりに配慮しつつこの取組を進める必要があることを改めて認識した。

また、モデル校を作ってはという意見があったが、こういった意見も踏まえて、地域拠点校に係る取組を進めていきたいと考えている。

志村委員長 モデル校を示すことが大事だと思う。複合化による良い面も市民に見せていけることになる。

倉斗委員 パブコメが市民の意見を聴きましたという通過儀礼になっていないかという指摘は、鎌倉市に限らず、全国の自治体である。

この取組を成功させるには、周知を行っていくことが大事である。これまでの方法だけでなく、新しい方法を試してほしい。ネットでの周知は情報過多になる傾向があり、例えばチラシを配るなどのアナログな取組も効果的である。

事務局 今回のパブコメにあたっては、「てのりかまくら」というチラシで、朝のJRの駅利用者に対して配布を行い、周知の拡大に努めた。

志村委員長 現在、鎌倉市では市民協働をどうしていくのかについての条例を作っているところであるが、市民と一緒にやっていくという姿勢を市が持つことが大事である。

ちなみに、13件という意見の数はほかと比べて多いのか。

事務局 事務局がある経営企画課では、地域拠点校の取組の外、本庁舎整備の取組を進めている。その本庁舎のパブコメが51件であったことと比べると、少ないことになる。

一方で、今回のパブコメを行うにあたっては、素案の冊子を配布しているが、その冊子は100部以上配布できたという実績がある。

井上委員 今回、具体的な学校が挙げたことによって、初めて自分に関係があることであると意識できるようになったと思う。このような機会があって初めて色々な人と話し合ったりすることが大事なのだと思う。

志村委員長 これを他人事にするのか、自分事にするのかが鍵である。その最初の一石を投じるのがこの委員会での議論であったのだと思う。

パブコメを受けて、修正が必要な箇所はないと思うが、それで良いか。

全委員 (異議なし)

## (2) 地域拠点校選定の考え方(提言)の確定について

事務局 【資料4 地域拠点校選定の考え方(提言)について説明】

【資料5 地域拠点校選定の考え方(素案)からの主な修正内容について説明】

志村委員長 【委員長配布資料について説明】

山ノ上委員から現場を見たほうが良いという提案もあり、自分も小中学校全25校を自転車で回ってきた。一次抽出された学校12校を整理したものを作成し、事務局に配布してもらったので、参考にしてほしい。

山ノ上委員 現場を見る必要があると思い、12校の見学会を設定していただいた。机上で資料を見ているのと、実際に見るのとは大きく違った。実際に見に行き、環境を確認したことで、どの学校がふさわしいのかという判断材料を得ることができた。

志村委員長 現場を回ったほうが良いという指摘も正しいと思うし、今回のように優先的に検討していく学校の選定に留めるのであれば、まずは資料による検討で十分であるという事務局の判断も間違っていないと思う。参加任意の見学会の設定を事務局にさせていただいたが、スケジュールの調整がむずかしかったため、個人的に回ってきた。

自分で回ってみた結果、今回の抽出結果に間違いがないことが確認できた。選ばれなかった学校には、それなりに理由があることも確認できた。また、自分の足で回ったことによって、新しい視点にも気づいた。

一つ目が接道条件、二つ目がシンボルとしての視認性、三つ目が接する道路の幅員や交通量、四つ目が通常のアプローチや緊急避難経路を想定したうえでの敷地への出入口の位置、五つ目が駅からの経路、六つ目が歩道の整備状況、七つ目が近隣に公共施設があるか、などの視点を思いついた。今後の取組に活かしてほしい。

山ノ上委員 高齢者や子ども、障害者の福祉サービスを一体化していくために、厚生労働省から提出された関連法案が平成29年2月7日に閣議決定されたと聞いている。そのようなことを実現していくには、ある程度の規模の施設が必要になってくると思う。

志村委員長 今後、地域拠点校の整備にあたっては、そのときの情勢にあわせた対応が必要になってくる。

中村委員 提言の鑑文に、学校環境の維持向上についての文言を加えていただいた。今後、取組を進める際には、地域の方々から、地域拠点校以外の学校についても声があげられてくると思う。

志村委員長 公共施設の再編はネガティブな条件を抱えて始められた取組であるが、そのような状況でもポジティブなことをやっていくことが大事であると思う。

山ノ上委員 今後のスケジュールを教えてください。

事務局 提言いただいたことを踏まえて、行政計画として取りまとめていく予定である。どのように動かしていくのかについては、地域の方々に説明しながら固めていきたいと考えている。学区の見直しや統廃合も含めて、教育委員会と連携を図りながら進めていく。

山ノ上委員 来年度のふれあい懇談会では、この地域拠点校がメインテーマになると思う。

石渡副委員長 今後はもっと地域の人々の意見を聴いてほしいと思う。我々も何ができるのかを考える必要があるが、地域の人々と一緒にやっていくことは不可欠である。そうやって進めていかないと、みんなに愛される施設にならないと思う。

志村委員長 提言については、特に修正なしということではよろしいか。

全委員 (異議なし)

### (3) その他

志村委員長  
事務局

その他、事務局から何かあるか。

#### 【今後のスケジュールについて説明】

議事録については、毎回委員会で確認をいただいているが、今回は最終回のため、メール等により確認をいただきたい。

公共施設の中でも、学校は最も重要な施設の一つである。学校を取り上げた今回の委員会の中で、皆様にご議論いただいた内容を踏まえて、どんなまちづくりを進めていくのかを今後も議論していきたい。また、取組について周知が足りないとの指摘があったが、今後は積極的に市の取組の周知に努めたいと思う。

志村委員長

各委員から一言ずつお願いしたい。

伊藤委員

候補となる学校を見に行かせていただいたが、妥当だという感想を持った。今後は、念入りに議論を進めていただきたい。

林委員

かつて県立高校の再編に携わったことがあるが、その際にも総論賛成、各論反対という流れになった。地域拠点校の整備の際には、そのような流れになる可能性もあるが、自信を持って進めてもらいたい。

中村委員

学校は地域の方々に支えられていることから、今後も地域と学校との連携を大事にしてほしい。

岩佐委員

大船地域では災害時の対応の協議を進めている。このような取組においても防災や防犯の視点を大事にしてほしい。

山ノ上委員

地域拠点校が整備された際には、行政センターが廃止されることをもっと周知していったほうが良いと思う。また、この取組を町内会にも周知して、早くから協力してもらったほうがよい。早く取組を進めてもらいたいと思う。

井上委員

優先的に検討していく学校に留めたことで、柔軟に地域の方々の意見を聴くことができるようになった。ぜひ聴いていってほしい。

杉山委員

大きなビジョンを持って進めてほしい。また、取組にあたっては、若い人の意見をどんどん聴いていってほしい。

倉斗委員

地域拠点校が整備される学校の周辺以外の地域にも目を向けてもらいたい。  
他の自治体等でも統廃合や公共施設再編の取組に参加させていただいているが、総論賛成各論反対になることがよくある。それは総論の理解が十分でないことによるものであると思う。鎌倉については多くの人がある歴史や地理を知っている、そのようなみんなが知っていることを強みにして取り組んでほしい。

石渡副委員長

重要なことは子どもの命である。今後は子どもに軸足を置いて進めてほしい。

志村委員長

この数日で全 25 校を見に行ったが、新しい発見が一杯あった。故郷のために役に立つ仕事ができることは大変光栄である。

子どもが卒業した後にも地域住民として学校に係われる機会があると良いと思っているので、この地域拠点校がそのような関係性を持たせられる計画になると良い。